

登録コード	J5210300	開講年度	2026				
授業科目	実践データ分析Ⅳ					担当教員	石橋 敬介
英文授業名	Practical Data AnalysisⅣ					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・2時限	対象学年	(20・23カリ対象科目) 経：3年/法：3年
講義室	経法401 演習室		授業区分	演習	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	経法20加 社会資源の制約のなかで解決方法を創り出す能力、多様な価値観の中で対立を回避する危機管理能力を応用力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。 ⇔ 社会資源の制約のなかで、データを用いてビジネスの課題を分析し、解決方法を創りだせるようになる。 経法23加（2026改）・応用経済、経法23加・応用経済 専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。 ⇔ 専門知識を応用・実践する力として、統計モデルを活用してビジネスデータを分析し、企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。 環境問題、少子高齢化、自然・経済リスクの管理、コーポレート・ガバナンス等の法制度がかかわる問題などについて、現実 に解決を探る際には、法学、さらには、理学・工学・医学等の関連領域との協力が必要となる。このために、関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析手法との相違を把握し、経済学の知見を、柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につける。 ⇔ 医学や農学、人文学等でも利用されるデータ分析手法をビジネスデータ分析に活用する中で、経済学的分析手法との相違を把握し、経済学の知見を柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につける。 経法23加（2026改）・総合法律、経法23加・総合法律 環境問題や、企業や行政の組織内において、日々生起する諸問題について、理工学分野や経済学分野の思考方法にも一定の理解を持ち、総合的に解決していくことのできる能力を身につける。 ⇔ 企業や行政の組織内において、統計モデルを活用してデータを分析し、問題を解決する方策を立案する能力を身につける。						
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	近年のビジネスにおいては、様々なマーケティングデータが取得可能になり、蓄積されてきていることから、そのデータの活用が重要になっている。そこで本授業では、マーケティングデータを統計的に分析する手法を演習を通じて学んでいく。また、分析内容を実際のマーケティング施策に活用する方法についても講義する。 担当教員は10年以上にわたり企業等のマーケティングデータを分析してきた実務経験があり、その際の事例を適宜紹介しながら講義を行う。 なお、2026年度「実践データ分析Ⅳ」は、20カリキュラムの「ビジネス実習」（演習・実習を併用する形態の科目）の読替科目であるが、実習は行わない（演習のみを行う）。						
(5)授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 マーケティングの統計モデル 第3回 RとRStudioの活用（基礎） 第4回 モデリングと予測：変数選択 第5回 モデリングと予測：分布と関数の選択 第6回 モデリングと予測：評価と予測 第7回 モデリングと予測：二値データの分析 第8回 RとRStudioの活用（応用） 第9回 プロモーション効果測定：実験設計 第10回 プロモーション効果測定：モデルによる評価 第11回 製品企画の評価 第12回 ブランド力の測定 第13回 商品の分類 第14回 併買分析 第15回 講義のまとめ、授業アンケート レポートを第7回目までに1回、第10回までに1回、第14回までに1回の計3回出題する。 ただし、授業の進捗により前後することがある。 べ切は各課題の提示から6日後である。						
(6)成績評価の方法	レポートにより評価する。レポートは、与えられたデータを授業で学んだ方法によりRで分析するものである。 期末試験は行わない。						
(7)成績評価の基準	基本的な考え方を理解してデータ分析を行えば「水準にある」、分析結果を的確に解釈できていれば「やや上にある」、分析結果を深く考察できていれば「かなり上にある」、分析結果をマーケティングの理論と関連付けて施策の立案ができれば「卓越している」						

(8)事前事後学習の内容	毎回、講義資料や学習用データを eALPS にアップするので、それをもとに予習復習を行うこと。また、授業中に提示する課題に取り組むこと。
(9)履修上の注意	多くの回でR・RStudioを用いた演習を行うため、ノートPCの持参は必須である。 R・RStudioの使用方法については、第1回～2回の講義内で教えるが、まったくの未経験者は、2026年1月に開いた実践教育科目ガイダンスで紹介したWebサイトなどを利用して自習することが望ましい。情報処理A・Bを履修することでも理解が深まる。 また、前期の「マーケティング・データ分析」を履修済みであることが望ましい。
(10)質問,相談への対応	メールにて受け付ける。メールアドレスは初回の授業で公開する。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	古川一郎・守口剛・阿部誠『マーケティング・サイエンス入門 -- 市場対応の科学的マネジメント 新版 (有斐閣アルマ)』有斐閣 照井伸彦・佐藤忠彦『現代マーケティング・リサーチ〔新版〕：市場を読み解くデータ分析』有斐閣